

- 一 川瀬の千鳥
- 一 竹むら
- 一 雨露
- 一 冬のそら
- 一 花さく春
- 一 やよ花桜
- 一 燕
- 一 真直に立よ
- 一 我大君
- 一 こゝなる門
- 一 うづまく水
- 一 環
- 一 毬
- 一 兄弟妹
- 一 操練
- 一 風ぐるま〔保育唱歌より、東儀季熙作曲〕
- 一 蜜蜂
- 一 一羽の鳥
- 一 數へ歌

『幼稚園唱歌集』全曲の歌詞は巻末楽譜を参照。

次の書目は音楽取調掛が出版した唱歌教科書である。

唱歌掛圖初編 明治十四年九月出版届

- 小學唱歌集初編 明治十四年十一月出版届
- 唱歌掛圖初編續 明治十四年十一月出版届
- 小學唱歌集第二編 明治十六年三月出版
- 唱歌掛圖第二編 明治十六年三月出版
- 小學唱歌集第三編 明治十七年三月出版
- 幼稚園唱歌集 明治二十年十二月出版

(二) 音楽書の出版 明治十六年～十七年

音楽取調掛は三種類の音楽入門書を出版している。原書はいずれも英語の初歩的な音楽啓蒙書であったが、この訳本はわが国最初の系統立った音楽書として今日重要視されているものである。一部分下訳を買い取ったものを除き、訳業と校訂は取調掛員に課せられた仕事であった。翻訳稿は順次伝習生への授業のテキストとなった。

〔音楽書出版に関する伊澤修二の報告〕

音楽書類刊行ノ事

明治十六年七月音楽問答及ヒ樂典ヲ出版シ各五百部ヲ印刷ス同九月更ニ音楽指南ヲ印行ニ付ス是レマタ不日其功ヲ竣ヘントス音楽問答ハ音楽ノ大綱ヲ問答ニ擧ゲ初學ノ徒ヲシテ此學ニ入り易カラシメタルモノニシテ最モ便利ノ書トス樂典ハ音楽ノ典則規矩ヲ條述シタルモノニシテ分テ四編百條ト爲シ殆ド音楽ノ要理ヲ竭セリ音楽指南ハ音楽教授法ニシテ音楽ノ初歩ヨリ漸次歌曲ノ練習ニ至リ盡ク本掛所撰ノ唱歌掛圖ニ合セタルモノナリ皆音楽傳習上必需ノ書ナリ抑本掛創置以降音楽教科用書ニ乏シキハ傳習上一大所患ナリシカ該書類印行ニ係ルヨリ傳習上大ニ便宜ヲ得タレバマタ以テ此事業ノ一層進

歩ヲ見ルニ幾カルベシ

〔手書き〕

〔『音監經伺書類上下、音楽取調成績申報書』明治十七年〕

明治十六年九月出版届 Mason, Luther Whiting: The National music teacher, 1872

音楽問答 ユーシー著 瀧村小太郎訳 神津専三郎校閲 明治十六年七月出版 Jousse's Catechism of Music

訳者の瀧村小太郎は元駿河藩の役人であったようである。音楽取調掛では司法省の妻木頼矩（瀧村と同藩）より訳稿を買いつた。校閲の神津専三郎は、明治八年に伊澤修二とともに「師範学科取調のため」、アメリカに留学し（彼はニューヨーク州のオルバーニー師範学校）、帰国後、明治十四年に伊澤に招かれて音楽取調掛に勤務するようになった。彼は監事として音楽取調掛の運営に尽力する一方、翻訳の仕事と伝習生への音楽史の授業を受け持った。

楽典 ジョン・カルコット著 神津元訳 神津専三郎校訂 明治十六年七月出版 Dr. Calcott's Musical Grammar

訳者の神津元についての手がかりは今日まで何もないが、神津の姓から推して専三郎と何らかの関係があったのかもしれない。

この『楽典』は、その後につづく音楽入門書ならびにわが国の楽語の底本となったが、この時に翻訳された楽語で今日なお使われているものもかなり多い。左記にあげた楽語はその例である。

accidental 臨時記号、clef 音部記号、sharp, flat 嬰・変、chromatic scale 半音階、diatonic 全音階、melody 旋律、natural scale 自然音階、principal note 主音、rhythm 拍子、scale 音階、syllable 階名、harmony 和声、musical foot 楽句、transposition 移調、expression 発想

音楽指南 ルーサー・ホワイトティング・メーンソン著 内田彌一訳

訳者の内田彌一は、神津専三郎とともに音楽取調掛の監事をつとめた。音楽取調掛に勤務する以前は大学南校で教え、その後正院の反訳局で外国語の翻訳の仕事に当った。長唄の名演奏家であったと伝えられている。

四 楽器の改良および試作

唱歌教育に必要な楽器として最適なオルガンおよびピアノは輸入に頼らなければならないうえに、非常に高価である。もっと身近な楽器、つまり「日本在来の楽器を教育用として改良すること」および「オルガン、ヴァイオリンを模造すること」の試みも音楽取調掛の大きな事業の一つであった。以下の文章はこの問題に関する伊澤修二の報告である。

学校唱歌ニ用ケル所ノ楽器ハ本邦ノ箏、胡弓、西洋ノ「ヴァイオリン」、風琴、洋琴ト定ムベシ

下等若クハ中等小學ノ唱歌ニハ箏、胡弓、等ヲ以テ足レリトスベシ若シ「ヴァイオリン」又ハ風琴アレバ最モ善シトス

上等小學若クハ中學等ニ在リテハ必ず風琴ヲ備フルヲ要シ若シ洋琴ヲ備フルヲ得バ最モ善トス風琴ハ其振舌ヲ除クノ外總テ本邦職工ニテ製作スルヲ得ルニ至リ「ヴァイオリン」モ亦本邦人ニテ製作スルモノアレバ決シテ輸入ヲ仰ガズシテ事足ルベシ但シ洋琴ニ至リテハ數年ノ後ニ非レバ本邦人ニテ製作スル事能ハザルベシ右ノ方法ニヨレバ諸學校唱歌ヲ旋スニ當リテモ樂器ニ於テハ聊差支ナカルベシ